

編集後記

- ◇ 昨年11月始、大変嬉しい知らせが入ってきた。その知らせとは茨城県行方市の「JAなめがた甘藷部会連絡会」が“平成29年度天皇杯”を受賞することが決まったというものである。その受賞理由は、農林水産祭7部門の内、多角化経営部門で「味で勝負する“焼き芋”販売戦略による地域活性化と農家所得の向上」とされている。ご承知の通り、JAなめがたでは各地のスーパー店舗に焼き芋用電気オーブンを設置し、そこに3品種の甘藷のリレー出荷による周年供給体制を確立したこと、また、廃校を活用した体験型農業テーマパーク施設を建設し6次産業化に積極的に取り組んだこと、更にはマレーシアやタイ等への輸出を進めたことなどが高く評価されたものである。この栄えある受賞は、いも関係者にとってこれまでに無い朗報であり、心からお祝いを申し上げたい。
- ◇ 本誌No.134の総説では、明治時代に米国から導入され、戦後まで西日本を中心に広く栽培された「七福藷」について、導入経緯とその後の利用などについて詳しく寄稿頂いた。現在、広島市矢野町では、郷土史研究サークル「発喜会」が中心となって、七福藷の復活を目指して活動を行っている。これは郷土が生んだ偉人、久保田勇次郎氏が明治33年に苦勞して導入した七福藷とその後代品種が、戦中戦後の食糧難時代まで大活躍しながら、今は極く一部でしか栽培されていないことを残念に思い、農事研究会と協力して約40名の参加で栽培を始めているとのことである。筆者も七福藷を試食したが、形が短紡錘型で上品な甘さがあり美味しく、十分に期待に応える可能性があると感じたところである。
- ◇ 農林水産省では「干しいも」に関する日本農林規格（JAS）の制定を検討することになり、「干しいもJAS規格原案作成検討会」の第一回会合が11月14日に開催された。これは、ひたちなか・東海・那珂ほしいも協議会が制定を申請したもので、伝統的な製法による干しいもの差別化を図ることなどを目的としている。関係者の合意により、世界に通用する規格ができることを期待したい。
- ◇ 本誌の特集では、1月号恒例の「いも類の新品種」を取り上げた。サツマイモでは「ハロウィンスイート」（三好アグリテック(株)）を、ジャガイモでは「ゆきふたば」（カルビーポテト(株)）の2品種について、それぞれの育成者に解説いただいた。今号では奇しくも民間企業育成の2品種となったが、この新品種の普及を見守っていきたい。

(鈴木 昭二)

いも類振興情報 第134号

2018(平成30)年1月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社